

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
(TEL) 6765-8904
(FAX) 6765-8905

子どもたちの豊かな教育のために

第31回大阪の障害児教育をよくする会総会 支援学校の増設を

6月9日、第31回大阪の障害児教育をよくする会総会が開催され、府内各地より11団体48人が参加しました。第1部の総会では、2019年度の活動方針案・予算案・総会アピール・役員体制が承認されました。第2部では学習会を行い、千住真理子さん(高等部の卒業後の学びの場)「ぼろスクエア」が「支援の必要な子どもたちの性と生」と題して講演しました。

地域に根ざした支援学校増設の声を上げ続けよう

開会あいさつの中で会長の牧野真美さんは、今年1月に出された新たな通学区域変更の問題点に触れ、障害のある児童生徒の増加や支援学校増設の必要性については30年以上前から訴え続けているにも関わらず、「予算がない」として対応しない府教委の姿勢を批判しました。その上で、「遠くの学校ではなく、もっと近くで学校に通えるように、地域に根ざした支援学校を増

こころとからだの主人公に

第2部の学習会講師の千住さんは、どんな障がいの重い生徒でも思春期はある、からだの変化が先に起こり心も変化する、発達年齢を考慮しながらも生活年齢を大切にすることが大事だと述べました。また、性教育で子どもたちに関わる際に特に大切にしてほしいこととして、①性は人権②自己肯定感を育てる③自己決定の機会を持つ④「快」の体験を積む⑤「ダメダメ」は人格を否定する言葉、という5点を紹介しました。

次に、ぼろスクエアで行う「性教育」と「進路」の授業

実践、堺市で障がいのある青年や支援者・保護者を対象に行うセミナーの実践を紹介し、青年が「性と生」について学び、自分の人生の主人公として生きる姿を語りました。

最後に、千住さんは、「思春期はからだが大きく変化する時。様々な行動が出るのは、からだの変化への興味・関心・疑問・不安による発達要求と捉え、【自分のからだを知るチャンス】【からだの違いを知るチャンス】である「性教育でなく、情報の限られている子どもだからこそ、【寝た子を

くまされた。来賓の山田けんた府議会議員(民主ネット)は、地元の枚方支援学校の最寄り駅から学校までの通学状況の危険性について述べ、「子どもたちの安心安全のためにがんばっていきたい。大阪の障害児教育を支える一人でありたい」とあいさつしました。また、内海公仁府議会議員(日本共産党)は、「大阪府の基本方針はあまりにも不十分なことは明らか。現実に対しては絶対に誰もこれを真正面から否定することはできない。みなさんといっしょに運動をすすめていきたい」とあいさつしました。



第2部は性教育について学びました

各地域のとりくみ・意見交流では、支援学校・支援学級の実態をはじめ、父母とともにとりくんだ学校増設を求める請願署名運動、高等部卒業後の「学びの場」の状況など、父母や教職員の様々な思いや運動の教訓が語られました。

(真実で)科学的に起こす【ことが大切である】性について学ぶことで、自分の行動をコントロールする力となり、慎重になる。自分のからだを知ること【自分のからだの主人公】に、自分で生き方を決めて行くことで【自分のこころの主人公】になる。禁止ではなく、「これならいいよ」とたくさん提示して、肯定的に見てほしい」と参加者に語りかけて励ましました。

参加者からは、「性教育がどんなに大切かよくわかりました」「中1の息子が思春期に入り、どう説明したらいいか戸惑っていました。本当のことを説明した方がいいということがわかり、とても勉強になりました」などの感想が寄せられました。

閉会のあいさつでは、新会長の岩田美穂さんが、「子どもたちが豊かな教育を受けられるように、みんなで力を合わせていきたいと思います」と呼びかけました。



6月4日、沖縄県浦添市の中学校のテニスコートで、部活動中の生徒の目の前で米軍ヘリの部品落下事故が発生しました。落下した部品は、ヘリの羽の部分を保護する「テープ」の一部で、たまたま布切れのような形状でした。幸いけが人は出ませんでした。整備がずさんだったことは明らかです。

当該の中学校では当面、野外の部活動は米軍ヘリが飛来するたびに一旦活動を中止し、生徒を校舎の物陰などに避難させる措置をとっています。今週からは、米軍機を監視する教員1人を追加で配置しているとのこと。教育現場にこれだけの負担を強いておきながら、米軍は「人身や財産に脅威を与えない」と主張し、謝罪の言葉は一切口にしません。

沖縄県は昨年からは今年初めにかけて、ドイツ・イタリア・ベルギー・イギリスに職員を派遣し、それぞれの国における駐留米軍の法的地位を決める地位協定などの内容と実態を調査しました。その報告書を見ると、駐留米軍への国内法の適用、米軍基地への立ち入り権、訓練・演習への規制、航空機事故の際の捜索権といった、4カ国にはあつて日本には無いものが多数あることが分かります。

4カ国では原則として、自国の法律を米軍にも適用させ、米軍の活動をコントロールしています。米軍機事故の捜索では、基地立ち入り権限も確立しているのです。自国内に主権を行使できない領域はありません。

「個人の感想ですが」と断った上で、「日本は本当に独立しているのですか?」現在も占領下にあるわけではないですよ」と、ある国では沖縄県の調査団に話す人もいたそうです。

大障教定期大会 発言ダイジェスト (その2)

ハラスメントのない職場を・連帯の大切さ

富田林支援学校分会 田中・神田・竹内代議員



(田中) 富田林では数多くの被害者がいたのにもかか

わらず、パワハラや体罰が隠べいされてきました。私は裁判の内容をニュースにしました。このニュースを作ってくれたのが神田先生です。



(神田) 私はパワハラが起

こった当該学年にのちに転勤で所属しておりまして、当時の様子を知る同僚からそのひどさを聞かされ、ハラスメントは絶対に許さないとこの思いから支援するに

いたりました。ハラスメントのない職場をつくるために、これからも支援を続けていきます。

(田中) 私はすべての学校でハラスメントがなくなるよう、自分のことを通してがんばろうと思っています。

(竹内) 富田林支援学校では、校長が変わって教員の



比率をどの学部もほぼ同じにするということになり、非常に大きな衝撃を受けました。その次に次に何をやるのかという目を向けさせて

てくれたのが、連帯してくれている組合員でした。また、新たに栄養教諭の方が組合加入してくれましたが、彼女も人と繋がることを大事にしていたのではと思います。その連帯を維持できるように分會づくりをこれからもやっていきたいと思っています。

バスの停車スペースは長期的な対策が必要

生野支援学校分会 河島・岡田代議員



と見込まれます。このままでは無理が生じ、長期的な対策が必要と感じています。学校にはスペースがなく、運動場を埋めるしかないのが体育の授業や体育祭などで大きな影響が出てくることは明らかです。

生野支援のスクールバス利用者は毎年10人から20人近く増えている傾向にあります。本来のバスの駐車スペースは6台分です。現状はそれでは収まりきらないので、3台を運動場の一部に停めています。7年前に東住吉支援学校ができ、また6年前に思斉支援学校に一部生徒が移ったことで、子どもの数は減りましたが、7年が経過し今はバスの停車状況は元に戻っています。これに加えて、生徒の全体



Hand in Hand

「おかえり」から始まる寄宿舎

寄宿舎ってどんなところ?

第2回

大阪北視覚支援学校は、東淀川区(最寄り駅はだいどう豊里駅)にあり、来年は創立120年を迎えるとても歴史のある(建物もですが…)学校です。学校とともに、寄宿舎も視覚障害児教育を支えてきました。舎生は、多いときには100人の在籍を超えるときもあり、自治会、クラブ活動、地域交流などの活動も盛んに行われていました。

現在の寄宿舎の舎生は、近年の入舎の条件が、通学に1時間以上かかり、週4泊となっているため、今年度は11人です。今年度は中学生と高等部普通科生ですが、小学生から専攻科と年齢層が幅広い北視覚の寄宿舎では、ゆったりと日課を過ごす中で、個々にあった時間の使い方を考え、日々生きる力を磨き、積み重ねています。また、クラブ活動(太鼓、ミュージックなど)にも参加し余暇活動も楽しんでいます。この他にも寄宿舎ならではの季節の行事で、のど自慢大会や、成人の舎生を対象に成人を祝う会などを企画してとりくんでいます。家庭や学校とは違う一面や、実はこんなところがあったんだと見せてくれることもあります。

今後、誰もが利用しやすい寄宿舎をめざし、そのために寄宿舎はどんなところかを沢山の人たちに知ってもらいたいと考えています。よろしくお祈りします。

